

■第1回 都市計画懇話会（大分市）

日時：平成16年12月24日（金）午後1：30～

場所：大分市役所

【道路についての主な意見】

- ・道路の渋滞はひどい。また、整備が進むと渋滞のポイントは移動する。未整備なものだけでなく整備済みのものまで含めて見直すべきではないか。
- ・大分市のランドデザインは良くできていると思う。まず、理想とするまちづくりをしっかりと示すべきではないか。
- ・道路をどのような目的で使うのか等、道路の位置づけをもっと明確に示すべきである。
- ・決定後住民への説明や意見を吸い上げるようなシステムはできないか。
- ・地元から見て今となってはいらないとか、ない方が良いという道路もあるのではないか。
- ・これまで産業中心の道路づくりを行ってきたように思うが、これからは生活者中心の道路づくりを行うべき。
- ・その時代時代の判断で見直しをかけていくことが必要であり、責任ある行政の姿ではないか。明確なビジョンを示して地元、地域の意見を聞くべきである。
- ・古いものは60年近く見直して来なかったとの事であるが、線引きについても、5年に1回見直している。例えば10年に1回などのサイクルで見直すことが必要ではないか。積極的に見直すべきである。
- ・ライフスタイルも変わっているのであるから、見直すべきだと思う。
- ・53条規制を緩和して固定資産税等財政的に潤うのであれば、緩和してはどうか。

【公園についての主な意見】

- ・かつて配置バランスを取ることを重要視して配置しただけで、住民も必要性を感じていないのではないか。
- ・鶴崎総合運動公園のような公園計画地内でミニ開発が横行するような事例は問題である。計画決定したら行政が責任を持ってしっかり指導して欲しい。
- ・今、市民が何を必要としているかを考えて見直す事が重要である。
- ・市内中心部に公園を設ける必要がある。そうすれば、公園が中心部空洞化の歯止めの役割も果たすと考えられる。

- ・公園整備については、大人だけでなく子供達の意見を聞くことも重要である。また、自然を取り込むという発想、視点を取り入れるべきである。
- ・緑をたくさん残して欲しいが管理についても考えておくことが重要である。
- ・計画決定されているからといっても、それが今必要とされているのかという視点が重要ではないか。
- ・市街地内では、壁面緑化をしても緑を増やす事が重要で、郊外部では緑の保全に力を入れるべきだと思う。
- ・点的に整備するのではなく線、面的に整備することが生態系の保全からは重要である。
- ・公園を利用する、高齢者と子供では使用目的が違っている。
- ・従来型の公園の作り方ではいけない。公園は犯罪の多発地という意識を持つべきで、外周のどこからでも見通しが利くような公園づくりをすべきである。

■第1回 都市計画懇話会（中津市）

日時：平成16年10月27日（水）午後2：00～

場所：中津市役所

【道路についての主な意見】

- ・ 行政機関、懇話会メンバー等が実際に現地へ行って、未整備の状況を確認する必要がある。
- ・ 道路整備に優先順位をつけて概ね何年後に整備するのか具体的に示す必要がある。
- ・ 既存道路の有効利用を検討するとともに、関係機関の連携が必要である。
- ・ 地域住民の声を大切にすぎているのではないか。整備が必要な路線は重点的に整備すべきである。一部の区間だけを整備してもネットワークが形成されなければ、限られた人、企業しか利用できない。
- ・ 高齢者や子供にも配慮した道路が欲しい。都市計画道路を造るか造らないかの議論ではなく、既存の道路をどう改良すればよいかを検討する必要がある。

【公園についての主な意見】

- ・ 公園を創る場合生態系(ビオトープ的なづくり方)、子ども、お年寄りに配慮した公園を検討してはどうか。現在ある資源を有効に活用することが重要である。懇話会メンバーで計画区域の実態を視察すべきである。

■第1回 都市計画懇話会（日田市）

日時：平成16年10月28日（木）午後1：30～

場所：日田市役所

【道路についての主な意見】

- ・交通需要の少ない場所に立派な農免道路ができ、逆に整備が求められる都市計画道路区間は未整備であるなど、道路を管理する所管を超えた交通体系を整備すべきである。
- ・街を良くするための道路が逆に歴史的な街並みを壊すなど不合理な面がある。現在の状態を維持する考え方があってもよい。道路機能毎に分類し、整備すべきである。

【公園についての主な意見】

- ・整備されている公園での利用が少ない。どのような公園、どのように利用してもらうかなどを検討していく必要がある。
- ・海外の事例を参考に公園のあり方について見直すべきである。単に遊具を設置するのではなく、地形に変化をつけるなど工夫が必要。また、高齢者への配慮も必要である。
- ・整備が困難な公園については、整備可能な区域だけでも整備するといった視点が必要である。
- ・観光地と一体になった地域活性化に結びつく生産性のある公園なども検討してはどうか。
- ・53条による家屋立地の場合、当該地が公園区域であることを住民に説明すべきである。
- ・公園内での事故責任が問われるなど、土地提供の協力があっても公園として整備しにくい。里山公園、農村公園などは市が土地を借り切って整備しているケースがある。公園整備には地元住民の参画も必要である。

■第1回 都市計画懇話会（佐伯市）

日時：平成16年11月9日（火）午後2：00～

場所：佐伯市役所

【道路についての主な意見】

- ・3・4・22 藤原高畑線の計画に向けた地元説明会があったが、その後7～8年経過しても何も進展がない。いつ整備されるか不明な状況では地権者の生活設計が立てられない。定期的に状況を説明するなど、地権者、住民の立場に立った道路整備を進めて欲しい。（例えば、看板等で道路整備の時期について知らせるなど、目に見える形で地域住民に示してはどうか。可能性の高いものから順次整備を進めるなど優先順位をつけて行っていけばどうか。）
- ・3・5・14 山際線については歴史と文学にふさわしい道、人を中心にした道がよい。幅員は必ずしも広げなくてもよいのではないか。また、休日の交通規制なども良いと思う。
- ・山際線は観光客も訪れるので道路形状をスラローム、ハンプ等により車のスピードが出ないように配慮するとともに、石畳舗装にするなど歴史環境や人にやさしい道づくりを進めてはどうか。
- ・山際線について観光もよいが、近傍に墓地があり、お盆シーズンになると大渋滞する。現在、車を使う人がほとんどなので何か対策を打てないか。生活面で問題である。交差点角の見通しなど視覚的に危険な場所もあり、道路整備と合わせて総合的な安全対策を検討して欲しい。
- ・検討委員会で出された意見（整備が進まない路線については、「今後〇〇年整備しない路線です」と宣言し、建築制限の規制を緩和する。）のように、計画決定後、40年～50年以上経っているものについては規制緩和をすべきである。
- ・地域住民からの意見を聞きながら計画すべきである。

【公園についての主な意見】

- ・これまでは公園利用者といえば子どもであったが、今後は子どもとお年寄りに配慮していく必要がある。
- ・最近、子どもは公園で遊んでいない。無理に造らなくても今あるものを改良して利用すべきである。
- ・避難場所にもなるような公園が必要である。家が建て込んでいる箇所では現実問題、整備は困難ではないか。公園がいらぬというのではなく、原っぱや番匠川の河川敷きなどを利用して家族全員が遊べる場所を造る方が有効利用できる。
- ・佐伯市総合運動公園は遠くて子どもが遊びにくい。近くに安心して遊べる公園が欲しい。
- ・遊具があると逆に事故が起こる可能性もあり、管理面で問題となる。トイレが汚いと公園全体のイメージが悪くなり、利用されなくなる。きれいにするため公園の管理が大切である。

・公園づくり、管理には地域の協力が必要である。畑や休耕田などを借地し、公園にしてはどうか（以前、農地をゲートボール場にすると土地の扱いが雑種地となり、税金が上がるといったことがあり、無理にでも耕作（梅の木を植えたり）をしていたケースがある）。市民農園などの活用もあるのではないか。

・今後、懇話会で出た意見をどう整理し、活用していくかが大事である。